

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-115599
 (43)Date of publication of application : 08.05.1989

(51)Int.Cl.

B26F 1/32

(21)Application number : 63-224373
 (22)Date of filing : 07.09.1988

(71)Applicant : KOLOMAN HANDLER GMBH
 (72)Inventor : HANDLER ANTHONY

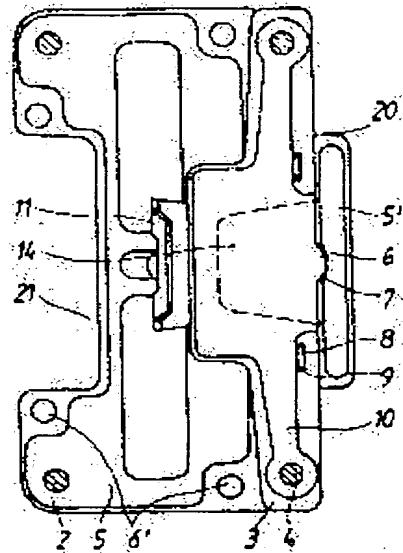
(30)Priority

Priority number : 87 2269 Priority date : 08.09.1987 Priority country : AT

(54) BASE PLATE OF TAKE-UP DEVICE FOR PUNCHED SHEET RETAINING DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To reduce the area of a base plate for material saving by forming a U-shaped recessed part with one swallow side edge of a pair of side edges, and an overhang part whose shape and size are the same as those of the recessed part at the other side edge.
CONSTITUTION: This base plate is provided with a U-shaped recessed part 21 with one swallow side edge of both side edges of it, and an overhang part whose shape and size are the same as those of the recessed part 21 at the other side edge. As a result, the fixed pin 2 of the base plate 1, and a rotatable and fixable moving pin 4 which forms a U-shaped punched sheet retaining arm together with the fixed pin 2 at the time of fixing, are positioned at an outward part from the overhang part 20. It is thus possible to reduce the surface area of the base plate and the volume of raw material without changing a clearance between the fixed pin 2 and the moving pin 4.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑪ 公開特許公報 (A)

平1-115599

⑫ Int.Cl.

B 26 F 1/32

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)5月8日

Z-7366-3C

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑭ 発明の名称 穿孔シート保持装置用緊締装置のベースプレート

⑮ 特願 昭63-224373

⑯ 出願 昭63(1988)9月7日

優先権主張 ⑰ 1987年9月8日 ⑱ オーストリア(AT) ⑲ A 2269/87

⑪ 発明者 アントニー・ハントラ オーストリア国、ア—1130 ウィーン、ミュールバツハ
ーガツセ 14⑫ 出願人 コロマン・ハントラ オーストリア国、ア—1231 ウィーン、ツイートラーガ
ー、ゲゼルシャフト・ツセ 15

⑬ 代理人 弁理士 鈴江 武彦 外2名

明細書

1. 発明の名称

穿孔シート保持装置用緊締装置のベースプレート

2. 特許請求の範囲

1. アール部を除いて外形が互いに平行に延びる一対の側縁によって区画され、固定ピン(2)が固定されると共に固定時には該固定ピン(2)と合してU字形の穿孔シート保持腕を形成する回動及び固定可能な可動ピン(4)を保持する穿孔シート保持装置用緊締装置のベースプレートにおいて、該側縁の一方に浅いU字形の凹部(21)を形成し、該側縁の他方に該凹部(21)と同形状かつ同寸法の張出部(20)を形成することを特徴とするベースプレート。

2. 前記可動ピン(4)を前記ベースプレート(1)に回動可能に保持する保持部を該ベースプレート(1)の前記張出部(20)に設けたことを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のベースプレート。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、穿孔シート保持装置用緊締装置のベースプレートに関するものである。

【従来の技術】

従来の穿孔シート保持装置用緊締装置のベースプレートは、アール部を除いて外形が互いに平行に延びる一対の側縁によって区画され、固定ピンが固定されると共に可動ピンをそのベースプレートへの固定時には固定ピンと合してU字形の穿孔シート保持腕を形成するようにベースプレートに対し回動及び固定出来るように構成されている。

そしてこの公知のベースプレートは、四角形の形状を有し、その幅は固定ピンとベースプレートへ固定されるべき可動ピンとの間隔によって決められるものであった。しかし、このように四角形の形状を有する場合は不要部分までベースプレートの材料を必要とするため、材料が無駄になってしまいうといふ問題があった。

【発明が解決しようとする課題】

この発明の課題は、最小限の原材料で製作される穿孔シート保持装置のベースプレートを提供することにある。

【課題を解決するための手段、作用及び発明の効果】

以上の課題を解決するため、この発明の穿孔シート保持装置のベースプレートは、上記従来の技術の項において述べたベースプレートにおいて、側縁の一方に浅いU字形の凹部を形成し、他方の側縁にこの凹部と同形状で同寸法の張出部を形成することによって構成される。

この構成では、固定ピン及び可動ピンは共に張出部から外側部分に設けられるから、固定ピンと対応の可動ピンとの間の間隔及び固定ピン同志間及び可動ピン同志間の間隔を従来のものと同じにすることができる。

それにもかかわらず、ベースプレートの面積を小さくでき、その分材料が節約できることになる。

【実施例】

以下、図面を参照してこの発明を実施例に基づ

いて説明する。

この発明のベースプレート1は、側縁の一方に張出部20を、他方の側縁に張出部20と略同一の形状の凹部21とを有する。締付装置を取りつけるベースプレート1は、固定ピン2を有する。固定ピン2と合してU字形の穿孔シート保持腕を形成する可動ピン4を備えた支持板3はベースプレート1上に回動可能に保持されている。

5はベースプレート1上に固定された支持板で、例えばリベットのような固定要素を取付けるために形成された孔6'の領域と支持板3の領域と後に述べる補強部材5'の領域を除く、ベースプレート1の大部分を覆っている。又、支持板3は、補強部材5とベースプレート1の一方の側縁の沿って延びかつベースプレート1に固定された補強部材5'との間に設置されている。

支持板3の、補強部材5'側の側面から突起6が突出している。この突起6は、補強リブ部材5'の、支持板3側の側面に形成された穴7に挿入されることによって、支持板3が補強部材5'に

支持される。突起6とこれらが挿入される穴の寸法は、両者の間に僅かな遊びが生じる程度に選定されている。

ベースプレート1の、張出部20の両端部分を打抜き上方へ折曲げて保持部を成す係止片8が形成されている。これらの係止片8は、支持板3にこれら係止片8に対応して形成された孔9を貫通し、それらの突出端部が補強部材5'の方へ折り曲げられている。このようにすることによって、支持板3がベースプレート1にこれから外れることがないように確実に支持される。

支持板3は、ベースプレート1の長手方向に延びる補強リブ部10が形成されている。この補強リブ部10の両端部に形成された穴に可動ピン4が挿入され保持されている。この補強リブ部10を設けることによって、ベースプレート1が補強されるばかりでなく、補強リブ部10が盛上がっているので、可動ピン4が支持板3に保持又は固定されるように、可動ピン4の下端にリベット頭などを形成する空間を設けることが出来る。固定

ピン2も、同様に、補強部材5の領域でベースプレート1にリベット止めによって結合されている。

11は、ベースプレート1の中央部から打抜かれ上方へ折曲げられて形成された支持片で、締付レバー12を支持している。このようにして打抜かれた部分は台形の穴(台形部)15になっている。この締付レバー12にローラ13が保持され、締付レバー12が第3図に示す締付け位置にある時は、支持板3の上面から駆出している補強リブ部10を下方へ押し、支持板3を、ベースプレート1と支持板3との間に設けられたばね(板ばね)14の力に抗して図示の通り締付け位置に保持する。ばね14は、台形部15の領域で支持板3を押し上げており、支持板3の幅が比較的狭いにもかかわらず良好なてこ比で支持板3に力を伝達出来るようになっている。

第1図から明らかなように、ベースプレート1は、補強部材5'の領域で、ばね14が嵌まる長手方向穴22を有する。この穴22は、補強部材5'の側面領域へ延出し支持板3の突起8が貫通

する穴7の方へ延びている。第2図から明らかなように、突起6は丸みを帯びている。

ベースプレート1の両側縁に張出部20と凹部21とを設けることによって、固定ピン2と可動ピン4との間の間隔が従来のベースプレートと同じであるにもかかわらず、ベースプレート1の表面積と材料の量とを、従来の四角いベースプレートよりも減らすことが出来る。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の正面図、第2図は本発明のベースプレートを備えた締付装置の平面図及びピンの断面図、第3図は第2図に基づく締付装置の側面図である。

1…ベースプレート、2…固定ピン、3…支持板、4…可動ピン、5，5'…補強部材、6…突起、6'…孔、7…穴、8…係止片、9…孔、10…補強リブ部、11…支持片、12…締付バー、13…ローラ、14…ばね、15…台形部、20…張出部、21…凹部、22…穴。

出願人代理人 弁理士 鈴江武彦

Fig.1

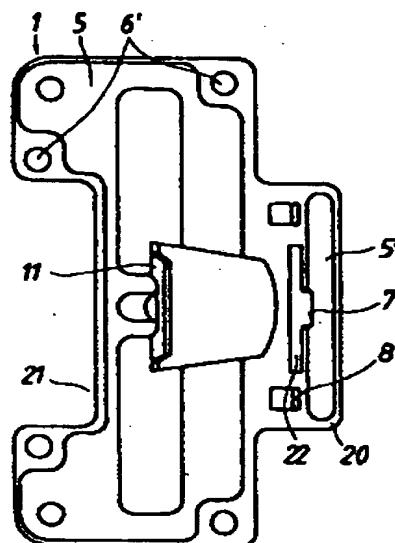


Fig.2

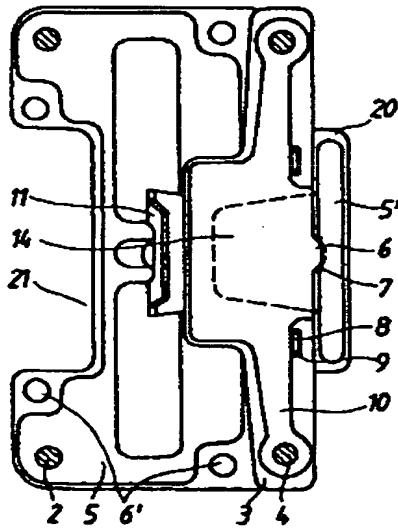


Fig.3

